



No.23

2016年4月1日発行

# 水辺のひま



▲柵の支えとなる管の打ち込み  
◀カーブの部分は粗朶柵で

## 増やそうイバラトミヨ！ 〜生息環境の整備〜

昨年11月、新発田市久保地区のイバラトミヨの生息環境を保全するために、当会と地域や関係機関の方々とで水路護岸の整備を実施しました。

この地域一帯は、以前に農作業環境を向上させるために圃場整備が実施されることになり、工事に先立って水路の生き物環境調査をしたところ、既に絶滅されたといわれていたイバラトミヨが見つかり、水性動物の環境を顧みるきっかけもなつたところでした。

今回の作業は、土水路で残している生息場所の護岸が崩れやすいため、何とかしてほしいとの地元要望を受けてのこと。費用の関係でなかなか手を付けられずにはいましたが、ようやく経費面の目途が立ち、作業に取り掛かることになりました。

当日は小雨の降る中、約30mの区間の護岸に粗朶柵や板柵を設置することができました。この水路でのイバラトミヨの生息数は年々減ってきています。当会では、今回の護岸整備を機に、改めて地元との連携のあり方、土水路の水を枯らさない対策、これからの保全活動のあり方などを模索していきます。

## 総会で新年度事業承認 設立20周年記念事業も

平成28年2月11日、当会の通常総会が開催され、新年度事業や予算が承認されました。

新年度は3月の国産大豆を使った手前味噌づくりを皮切りに、イバラトミヨ生息地の生き物調査や小学校や地域の環境学習支援、夏恒例の親水事業・水辺の大楽校、他団体との共催事業などを計画しています。

また、当会は今年も秋、設立20周年を迎えるため、記念事業も盛り込みました。昨年からは始めた鳥獣害勉強会をもう少し進めた形で実施するほか、6月には加治川堤を利用したちびっこマラソンを、11月には設立20周年記念講演会なども予定しています。

### 新年度の主な 主催・共催事業

- 3月6日 手前味噌作り
- 5月22日 竹俣活性プロジェクト田植え
- 6月12日 鳥獣害勉強会
- 19日 加治川堤ちびっこマラソン
- 7月31日 水辺の大楽校
- 9月25日 竹俣活性プロジェクト稲刈り
- 11月12日 20周年記念講演会

ほか



講演をさせる作務衣姿で講義

## 寺のイメージアップと 新発田のまちづくりを

今年の総会記念講演の講師は、堀部安兵衛の生家菩提寺、市内長徳寺の住職、関根正隆さん。

寺に人が来ない、葬儀をしない、墓仕舞い、檀家の喪失、様々の理由から近年は寺離れが進んでいます。「風船が徐々に萎んでいくように、寺も維持できずに残れば残っていけない」、そんなことを危惧し、関根さんは様々な活動に取り組んでいます。

長徳寺を会場にした料理教室、御斎料理のコーポ、音楽イベント、落語や浪曲の会などを開催し、寺に人が集まる仕掛けをしています。活動の進め方は、「一人に頼る」「あるものを活かす」「足掻く」の三つです。

「あさてらの会」は宗派の垣根を越えているいろいろな寺を会場にします。市民に朝のお勤めに参加してもらい、みんなでおかゆを食べる、それだけのことで、リピーターも増えています。昨春秋には7か所の寺で市内外の人が店を開く「新発田寺びらき」を初めて開催したところ、1日で約7千人が集まったそうです。

関根さんは長徳寺の将来像を描きつつ、一方では寺カフェ、縁結びスイーツ、市内の料理店で兵庫県赤穂市の力キを使った料理を提供するオイスターバーなどのまちづくりイベントにも関わっています。

講演会ではプロジェクターが動かないというハプニングがあり、映像をあまり見られなかったのは残念でしたが、経験談や長徳寺の展望など、次から次に出てくる話には、聴衆は興味深く聞き入っていました。

## 手前味噌の仕込み終える 参加者の6割はリピーター

安心安全な材料を使って、身近な調味料を自分の手で作ろうと始めた手前味噌の会も、今年が12回目。

このイベントは誰でも手軽に美味しい味噌を作ることができることから人気があり、その年によって米倉、紫雲寺、加治と会場を変えています。今回も定員率は6割にも及んでいます。今回も定員以上の申し込みがあり、すべての方の要望に応えきれなかったのが少し残念でした。

## 新発田の自然 赤谷林道から湯の平温泉へ



赤谷の奥地にある秘湯といわれる「湯の平温泉」については、「水辺の広場10号」で紹介していますので、今回は温泉に至るまでの林道を取り上げてみました。

湯の平温泉は、原則、徒歩でしか行くことが出来ません。で加治川治水ダム駐車場に車を止め、そこから歩みを進めます。

掛止沢ダムまでの8.2kmの林道は平坦で、シーズン中は飯豊川のせせらぎの音や秋の紅葉が長い徒歩を楽しませてくれます。上層にブナの木、下層にユキツバキが密生する植物群落は、多雪新潟を代表するもので加治川流域の上限として分布しています。右に左に大きく湾曲した林道を、対岸の急峻の尾根や遠方の飯豊山を見なが

## 田んぼや川の生き物③

## ホトケドジョウ

ホトケドジョウはもともと里山の代表的な魚で、おなかに肝臓が赤く透けて見えるためか「アカマル」と呼んで普通のドジョウと区別していました。

昔は市街地の農業用水路でもよく見かけましたが、最近めっきり少なくなり、新潟県レッドデータブックでは絶滅危惧Ⅱ類されています。ホトケドジョウは湧水に生息する魚です。湧水の流れ込む流れのあまり速くない水路で水草の繁茂したところ…それが最適な生息環境です。しかし、湧水と水草の茂る土堀の用水路は、近年減少しており、さらに農業や除草剤の使用がホトケドジョウの減少に追い打ちをかけたと思われる。

すべての生き物にいえることですが、生き物を守るためには、その生息環境を保全することが必要です。ホトケドジョウを守るためには、きれいな湧水のある土堀の用水路、つまり、かつての農村の原風景である里山の環境を維持することが必要です。

3月6日、会場の加治の七葉コミュニティセンターには友人、親子、夫婦、三世大家族など、約80名が集まりました。講師は市内の藤田味噌靴店店主の藤田さんです。

さて、味噌づくりの作業は最初に糀と各自が用意した好みの塩を混ぜ合わせ、そこに茹でてすりつぶした大豆を入れ、よく混ぜてから、大豆の煮汁を加えてさらによく混ぜ合わせます。ここまでくればあと一歩です。リピーターはさすがに手際が良く、藤田さんの説明を待たずに手が動きます。この時点で、2樽目に取り掛かる人も見受けられました。

いよいよ樽への仕込みです。味噌種を詰めるときは、よく空気を抜かなければならないため、思い切り投げ入れるのがよいようです。パンパンと投げ入れる音が響きます。樽に詰めた後は、重しの塩を載せて完成です。



子どもたちも最後まで熱心に参加

今回も味噌を使った料理の試食を提供しました。スイーツやチーズと合わせたディップ、漬物など、意外な味噌の使い方を知るのも、このイベントの楽しみの一つのようです。

## 環境豆知識 Vol.20

## テングス病

今年も加治川堤の桜の季節がやってきました。土手に連なる桜の枝を見ていると、ところどころに小枝がホウキのように密集している枝があります。桜の花芽もなく葉っぱが花より先に出てたりしています。これが桜の病害の一つであるテングス病というもので、天狗が果を作っているようにみえることから、このような名前がついています。

この病気は、カビの一種であるタナフリ菌によるもので、この部分では桜の葉は光合成を行わず、テングス病の胞子を作り出しています。テングス病に罹患した枝葉からは大量の胞子を飛散させ、他の枝葉にとりついて伝染していきます。数年たつと枝が枯れ、そこから今度は腐朽菌が入り込んで一気に桜の寿命を縮めていきます。

有効な予防策は無く、罹患した枝を切除していくしかありません。切断面も薬剤で適切に塗布しなければならず、切った枝は焼却処分です。見落としてしまうこともあるので、数年続ける必要があります。人の病気と同じで早期発見、早期治療が必要な病です。

## 小学校の環境学習パネル展

当会秋の恒例事業「小学生環境学習パネル展」が、27年11月7日から15日までの9日間、イオンモール新発田店で開催され、新発田市や聖籠町、胎内市の小学校17校と、当会が毎年事業受託しているイオンチャーズクラブからも参加がありました。

当会設立10周年記念事業として始めたパネル展は、今回が9回目となりました。子どもたちの学習成果を多くの人に見てほしいと続けてきたこのイベントも、近年、小学校で環境学習の時間が減っていることや学校の統廃合による学校数の減少などにより、パネル展への参加校確保も年々厳しくなり、また会場確保も難しくなっているため、こ

ら進みます。

掛止沢ダム登山口から湯の平温泉までは本格的な山道になるので相応の準備が必要です。北俣川の吊橋を渡ると山荘までもう一息、温泉への期待が高まります。

その年の降雪状況により、林道の状況が変わるため、温泉の利用期間も変動します。昨年は、9月中旬から10月いっぱい短いものでした。今年の方はまだわかりませんが、この冬は比較的小雪だったので、林道の路肩崩れなどの被害が少ないことを期待したいのですが、どうでしょうか。

の9回をもって終了することになりました。これまで出展にご協力してくださった皆様、ありがとうございました。

## 失われた宝物②

### 50年前に決断した 新発田の町名

新発田市は新発田藩十萬石の城下町として栄えてきました。そんな新発田市には以前、二の丸、三の丸、鉄砲町、鍛冶町、指物町、寺町、桶町など、城下町を偲ばせる町名がありました。

城下町の面影は石垣や堀、隅櫓などの遺構や道路形態に残っています。市街地の町名(住居表示)で城下町を感じさせるものは、「大手町」だけとなっています。しかも「大手町」は、かつて大手門のあったところとは全く違う区域につけられています。

## 旅 殿様街道てくてく旅 ⑬

### 利根川にかかる長い橋を渡り埼玉へ

朝には栃木県小山市、午後には茨城県古河市と歩いた今回の旅は、夕方埼玉県に入って締めくくる。すっかり暗くなった午後6時近く、茨城と埼玉に跨がる利根川にかかる橋を渡った。とても長い橋で、中程に県境の表示。流れる水には変わりはないけど…。

向こうの鉄橋を電車が渡っていく。灯りを煌々とつけ、いつ果てるともなく続く長い長い車両は幻想的で美しい。たとえ通勤に疲れた人々が乗っていても、などと思っているうちに私達も橋を渡り終え、本日の終点である栗橋の関所跡に到着した。

翌日はそこから幸手まで、土手沿いの道を歩いた。途中の町のなかには昭和22年のキャサリン台風で水害時に浸水した水の高さを記した杭が何本も建てられていた。私たちの身長を遥かに超えている。大河のそばで暮らすということは、恩恵を受けるとともに水との戦いででもあったのだと思う。そして、今も各地で起こり続けている災害、人間なんて弱いものなんだ。

幸手市に着いた。「あさよろず」というホテルがあり、昔は「朝萬」と書いたそうで、明治維新前後に活躍した著名人が数多く宿泊したらしい。木製の宿泊札には、伊藤博文や大久保利通の名前も。宿のご主人は最初取っ付きにくそうだったが、次第に興に乗り次々と色んな説明をしてくれた。

とうとう東京まで50kmを切った。もう東京への通勤圏内、旅もいよいよ大詰め近くになって来た。

(恵)

「てくてく旅」は加治川ネットの有志が、参勤交代で殿様の歩いた街道を歩き歴史を感じようと、2007年から会津を目指し少しずつ歩き始めました。「会津」到着後、折角なので「江戸」へと歩みを進めています。

から発展してきた多くの都市では、昔からの町名が残されており、それが住民同士の連帯意識や伝統文化の継承に役立っているほか、来訪者に歴史や伝統文化を感じさせ、都市の魅力向上に一役買っていると考えられます。

それではなぜ新発田市は古い町名が消えてしまったのでしょうか。「しばた市史」によれば、昭和37年5月10日に公布された「住居表示に関する法律」をきっかけとして、新発田市は町名や区割りの変更を決断し、地域説明会を実施した後、39年3月議会で賛成21、反対15で可決され、同年4月1日、新町名が施行されました。

新町名施行当初は、住居表示優良団体として総理府から全国表彰されています。しかし、都市間競争が激しくなっている近年、城下町の特性を生かしたまちづくりを進めようとしたとき、旧町名が残っていたらと考える人

も少なくないのではないのでしょうか。外ヶ輪小学校、御免町小学校、本丸中学校などはその地にあったことから校名になったようですが、御免町、本丸の二校はすでに旧町名とは関係のない場所に転移しています。新町名施行から50年、旧町名を言われてもそれがどの辺りなのかを知らない市民も増えていきます。かろうじて、新発田市が設置した旧町名標柱や、職人町、同心町などの町内会の名前から、私たちは旧町名を偲ぶことになるのでしょうか。



市が設置した旧町名標柱

## NPO法人加治川ネット21の紹介

設立	1996年11月、2003年5月法人化
活動目的	21世紀を生きる子どもたちにより環境(自然、伝統、文化)を残し、伝える。
主な活動	水と親しむ水辺の大楽校、生き物調査、小学校環境学習支援、川辺や町並み散策、手前みそ作り、シンポジウム開催 など
受賞歴	環境大臣表彰、新潟県環境賞、「日本の水をきれいにする会」会長表彰ほか
年会費	法人会員10,000円、個人会員2,000円

## 《編集後記》

認知症の高齢者が列車にはねられ、鉄道会社に損害を与えた場合に家族が賠償責任を負うべきかが争われた訴訟の上告審判決で、3月1日、最高裁は「同居の夫婦だからといって直ちに監督義務者になるわけではなく、介護の実態を総合考慮して責任を判断すべき」との判断を示しました。

私の亡父は認知症で、生前は随分と大変な思いをしたことがあり、決して人ごとではありません。家を出て徘徊したことも、知らないうちに施設からいなくなったりすることもあり、身につまされる思いです。認知症でいくら言っても聞かないからと、紐で縛っておくわけにもいかず、家族にすれば休む暇もなく、神経がすり減るばかりです。

どんな病気や障害でも同じで、その立場になってみないと分からないことですが、なによりも社会の理解こそが救いです。認めて理解すること、これだけでも随分と救われるように思います。自分の心に抱え込んでしまうことこそがいちばん辛いことです。

(S.K)